

## (2) 八戸聖ウルスラ学院高等学校

「食育キャンプで青森の課題解決」



令和2年度高校生模擬議会 八戸聖ウルスラ学院高等学校 令和3年2月3日(水)

1

## 食育キャンプで 青森の課題解決

八戸聖ウルスラ学院高等学校



2

### 青森の課題 ～教育分野～

- ①生徒数減少による小中学校での教育格差
- ②青森が抱える問題への関心の低さ
- ③課題発見能力の向上



私たちは、青森県の課題解決案として、食育キャンプを提案します。

この課題解決案を提案するにあたり、教育分野、社会分野という2つの観点から青森県の課題について考えました。

教育分野において解決すべき課題は大きく分けて3つあります。(2)

1つ目は、生徒数減少による小中学校での教育格差です。

青森県は、地域によって人口の差が大きく、1学年100人を超える大規模な学校もあれば、1クラスにもならないほどの小規模な学校もあります。

生徒数が多い学校では、当たり前のように人数を必要とする体育祭や合唱コンクールなどの学校行事が行われていますが、生徒数が少ない学校では、そう簡単にはいきません。

また、生徒数が少ない学校では、話し合い活動や発表活動などの深まりや広がりが難しいこともあります。

青森県の学生に向けた主体的な学びの場をもっと増やしていくべきではないでしょうか。

2つ目は、青森県が抱える問題への関心の低さです。

短命県、人不足など、よく知られている問題の他にも、私たちが知らないだけで青森県には解決すべき問題がたくさんあります。

これらに対し、私たちもどこか他人事のように思っていたのが正直なところではあります。

私たちは、今回の活動を通して、自分たちの青森県に対する関心の低さを感じました。

だからこそ、もっと青森県について知ってもらい、これから新たな青森県を作っていく次世代のリーダー育成が必要だと思います。



### 青森の課題 ～社会分野～

3

- ①健康面(平均寿命、生活習慣病)
- ②進学・就職での県外流出の多さ
- ③地産地消の推進



3つ目は、課題発見能力の向上です。

これは、青森県だけに限らず、これからの私たちに求められる力です。

皆さん御存知のとおり、新型コロナウイルスは、今までにない経験で、たくさんの方が収束に向け暗中模索しています。

このように既に分かっている問題だけではなく、目には見えないもの、経験のないようなことに対し、自らが探し、学び、そして深く考える必要があります。だからこそ、課題発見能力の向上を目指す必要があります。

以上が、私たちが考える教育分野の課題です。

続いて、社会分野において青森県の解決すべき課題は大きく分けて3つあります。(3)

1つ目は健康面です。

青森県は短命県として知られています。

その背景には、塩分を多く摂取する県民の食生活、喫煙率の高さ、多量飲酒者が多いこと、運動不足などが挙げられます。

これらの要因が複合的な原因となって、生活習慣病を引き起こし、県民の平均寿命を短くしていると考えられます。

短命県を返上するためには、私たちの生活習慣を根本から改善する必要があります。

2つ目は、進学・就職での県外流出の多さです。

青森県では、高校卒業後に県外に出て行ってしまう若者が非常に多いように感じます。

実際、私たちの学校でも、高校卒業後に青森県に残ろうと思っているという人は、ほとんどいませんでした。

青森県の未来を担う若者が県外へ出て行ってしまうのは大きな問題です。





#### 課題解決としての「食育キャンプ」

4

- ・交流と体験中心のプログラム
- ・小中学生に能動的な学習の場を提供
- ・高校生、大学生、食・環境分野で働く人たちがプログラムを考案



3つ目は、地産地消の推進です。

農作物の収穫量が全国でもトップレベルの青森県ですが、せっかく収穫した野菜や果物をうまく消費することができていません。

そのため、食料廃棄率が高く、多くの食品を無駄にしてしまっています。

買い物でスーパーマーケットに行ったときも、地産地消コーナーが無いことが多く、あったとしても、スペースがとても狭いです。

地産地消は、私たち消費者が新鮮な農作物を低価格で手に入れることができるだけでなく、生産者も規格から外れているものや数量がまとまっていないものでも売ることができ、お互いに良い影響を及ぼし、食料廃棄率の低下にもつながるため、是非、推奨すべきだと思います。

以上が、私たちの考える青森県の課題です。

これらの課題解決のため、私たちは「食育キャンプ」というプログラムを考えました。(4)

この食育キャンプは、交流と体験を中心としたもので、小学校高学年や中学生を対象として学習だけでなく、実際に体験をすることで、能動的な学習の場を提供します。

この企画は、高校生や大学生、農家の人や環境分野で働く人たちが担当します。

私たちは、食事をテーマとして、3つの案を設定しました。

5

## プログラム①『食文化交流』

- ・地域の郷土料理作りで体験学習
- ・青森の多様性、食の豊かさの発見



まず1つ目は、食文化交流です。  
(5)

このプログラムの具体的な内容は、地域の郷土料理を実際に自分たちで作り、青森県の食文化を学ぶというものです。

同じ青森であっても、津軽や南部、下北とそれぞれがそれぞれ独自の文化を持っていて、食材が同じでも使う部分や味付けによって全く異なるものになります。

しかし、誇らしい食文化が青森県にたくさんあるにもかかわらず、私たちはその良さに気付いていません。

そのようなことを気付かせるためにも、郷土料理作りを通して、多様で豊かな青森県を知ってもらうことをこのプログラムの目的としています。

このプログラムでは、体験を通して食の面から青森に少しでも興味を持ってもらい、食の大切さをより多くの子どもたちに知ってもらいたいと考えています。

2つ目は、持続可能な食の学習です。(6)

このプログラムは、それぞれがグループに分かれ、青森県の食品廃棄や伝統料理、地産地消などの課題を話し合い、その解決策を考える体験学習です。

参加する小中学生には、話し合いの結果をもとに、グループごとに食に関する問題を意識した料理作りを行ってもらいます。

まず始めに、農家の人に応じた思いで食材を育て、私たちにどういった思いで食べてほしいのかを伺います。

次に、実際にグループに分かれ、農家の方からのアドバイスをもとに、課題への解決策について話し合います。

最後に農家の方と共に実際に料理をします。

その中で、食材は可能な限り地元のものに限定して料理してもらい、子どもたちに地産地消に関する意識付けをしたいと思います。

6

## プログラム②『持続可能な食の学習』

- ・青森県の問題を意識した料理作り
- ・地産地消、食品廃棄、伝統食材など、  
「課題を知り、解決策を考える」食体験学習





7

### プログラム③『学びの発信』

- ・キャンプ中…日々のふりかえり、全体発表
- ・キャンプ後…県全体に発信



### キャンプの効果①「青森の子ども育成」<sup>8</sup>

- ・青森が好きになる子どもたち
- ・青森のことに詳しくなる子どもたち
- ・青森のために働こうと思う子どもたち

さらに料理を行う前には、それぞれのグループで目標廃棄量を設定し、食品の廃棄を可能な限り減らす工夫をしてもらいます。

そういった努力をすることで、日本及び青森県で生じている食に関する問題を間近に理解させるねらいがあります。

このように問題の解決策を考えた後に工夫して料理をすることで、持続可能な食について意識をしてもらい、楽しみながら学んでほしいと考えています。

また、この体験学習では、青森県の現状を知り、解決策を考えることによる異文化理解へともつながると期待しています。

最後に3つ目は、学びの発信です。  
(7)

今までのプログラムで学んだことや新しい発見を振り返り、それらをグループごとに発表し、考えを共有します。

そして、食育キャンプ終了後は、発表した内容を県のホームページなどを通して発信し、最終的には、青森県が抱えている問題をより多くの人々に理解してもらい、少しでも問題解決に目を向けてほしいと思います。

食育キャンプによって得られる3つの効果を御紹介します。

1つ目は、青森県に愛着を感じる子どもの育成です。(8)

青森には、津軽と南部というような異なる文化があります。しかし、子どもたちがそれらに接する機会は少ないでしょう。

キャンプでは、他地域の子どもと自分の地域の食を交流することを通して、青森県の自分が知らなかった魅力を見出し、青森が好きという気持ちを引き出すでしょう。

自分の地域の食の良さを再認識するかもしれません。





また、キャンプでは、食育の講師によって、青森の食文化の背景から青森県の自然の良さを知り、青森県について詳しくなるでしょう。

最近の多文化ブームで自分の文化に自信を持つ人が増えてきました。

県外に出たとき、自分の文化やルーツを伝えられるようになりたい、という子どもたちの期待に応えます。



キャンプでの新しい食を生み出すという共同研究の経験から、実際に青森県のために貢献したい、ここで人生を送りたい、という気持ちを持つきっかけになると考えます。

## キャンプの効果②「青森の課題解決」<sup>9</sup>

- ・小規模校の子どもたちへの学びの場
- ・健康問題や食問題への意識の向上

2つ目は、青森の課題解決です。少子化と健康問題です。（9）

このキャンプは、交流による学びの機会を得にくい小規模校の子どもたちには貴重な経験となるでしょう。

小規模校は、地域の伝統を大切にしている学習をしているので、このキャンプで活躍することと思います。



この交流で生まれた人とのつながりを、キャンプ後に戻った学校で、児童生徒だけではなく、先生方も生かして、ICT機器を活用した交流学习に生かしてほしいと思います。

また、このキャンプで新しい食を考えた経験から、青森県における健康や食の問題は、自分たちの意識や工夫で解決できるものだと実感することができます。



健康の問題は、誰にとってもリアルティのある問題なので、実際に解決策を考えた経験は、様々な課題解決のスキルに役立つと考えます。

## キャンプの効果③「リーダー育成」

10

- ・世代を超えた交流の広がり
- ・仲間意識と助け合いの精神の向上
- ・課題解決能力の育成



3つ目はリーダー育成です。(10)

青森県には、これまでもリーダー性のある魅力的な人物が存在してきました。

リーダーシップは、様々な考えの違う人との交流で磨かれるものです。

このキャンプでは、出身地、年齢、職業など、様々なメンバーが出会うことで、新たな価値観や知識を学んだり、モチベーションを高めたりすることが期待できます。

このキャンプは、誰か一人に頼るのではなく、それぞれが自分のできることを精一杯すること、仲間と助け合うことを経験できるプログラムにしたいと思います。

お互いがそれぞれの力を発揮するために考えの違いを受け入れ、励まし合うことこそリーダーシップです。

青森県の課題解決には、若い世代からのリーダーシップ育成が必要であり、これを県の施策とすることは、これからの青森県のために必要ではないでしょうか。

これらはSDGsに関連していません。(11)

2015年9月に国際サミットで採択されたSDGsは、国際加盟193か国が、2016年から2030年の15年間で達成するための持続可能な開発目標として掲げられています。

私たちが考えた食育キャンプの実施は、6つのSDGsと関連するため、地球全体の取組とつながります。

世界規模の視点に立ち、次のような関連性を考えました。

## SDGsの精神に基づいたプログラム

11







12

**青森の将来を背負う子どもたちを  
食育キャンプで育成しよう**



まず、青森県の健康問題を意識した料理作りによって、「すべての人に健康と福祉を」を解決することができます。

次に交流と体験中心のプログラムで、能動的な学習の場を提供することによって、「質の高い教育をみんなに」を解決することができます。

さらに食文化交流から、青森の多様性、食の豊かさを発見することによって、「住み続けられるまちづくりを」を解決することができます。

そして、地産地消、食品廃棄、伝統食材などの課題を知り、解決策を考える持続可能な食の学習によって、「つくる責任、つかう責任」「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさも守ろう」を解決することができます。

このように食育キャンプには、SDGsとの関連性が様々あります。

SDGsの精神に則った県のプログラムというのは、世界に向けての良いアピールにもなるのではないのでしょうか。

以上で、私たちの政策提案を終わります。

【質 疑（質問者：県議会議員、答弁者：八戸聖ウルスラ学院高等学校）】

●<sup>つるが や</sup>鶴賀谷 <sup>たかし</sup>貴 議員（民主連合）

（鶴賀谷議員）



素晴らしい発表をいただき、心から感謝申し上げます。本日の体験が皆さんのこれからの人生に有意義になることをお祈り申し上げます。

また、皆さんは次の世代を担っていく貴重な人材です。これからも地域、社会、そして政治に関心を持って歩んでいただけますことをお願い申し上げたいと思っております。

青森県では、青森県食育推進会議において、「いただきます！みんなで進めるあおもり食育行動プラン」を作成しており、その主な推進項目に「Ⅰ家庭における食育の推進、Ⅱ学校・幼稚園・保育所等での食育の推進、Ⅲ地域や社会全体での食育の推進、Ⅳ農林水産業等での食育の推進、Ⅴ食関連産業での食育の推進」があるところです。

御提案の様々な分野、世代の方々の交流は、参加者それぞれの意識向上等につながるとは思いますが、今回、食育をテーマに選んだ理由について伺います。

（答弁）



テーマに食育を選んだ理由は2つあります。

1つ目の理由として、食育は青森県の大きな課題である健康意識の改革にもつながると考えたからです。

2つ目の理由として、食事は、今も昔も変わらず共通して存在するものであり、世代が違って話題にすることができ、多くの人たちが共有しやすいものだと考えたからです。

これらの理由から、参加者の健康意識改革のための教育、違う地方の人々や様々な世代の人々との交流ができるものとしてテーマに食育を選びました。

●<sup>よしだ きぬえ</sup>吉田 絹恵 議員（公明・健政会）

（吉田議員）



先ほど伺った中で「ああ、やっぱり私も、もっとそこを追求すれば良かったな」ということが1つありました。

以前、小学校の修学旅行などで、南部、津軽、下北といった県内を旅行して、そこを知ることが必要じゃないかということを感じ、提案したことがあります。

というのは、私も県議会議員になって、いろんな場所に行き、そこに住んでいる人たちが生活と共に、自然と共に、一生懸命頑張っているという姿を見て、「私も頑張らなきゃ」という思いをしたことが何度もありました。

先ほどお話を伺ったことで、これから私もぜひ、生徒さんたちに県内のことを知ってもらう工夫とか発信、そういうことを大事にしていきたいと思いました。

質問ですが、「食育キャンプ」という、そのキャンプというところが、いいことだなと、すごく楽し

く体験できて、またいろんな発見があるんじゃないかというワクワク感を持ってお話を聞きました。

小中学生、高校生、それから大学生、それから食や環境分野で働く大人の人たちが、多岐にわたり参加するようですが、参加者を集める方法として、どのような方法を考えているのかお伺いいたします。

(答弁)



このご時世なので、多くの人を集めるということは難しいとは思いますが、現時点では、小中学生には、青森県の各学校から1人は必ず参加してもらいたいと考えており、県の方から、各小中学校の生徒に募集をかけ、1人から3人を目安に集めることがベストだと考えています。

高校生、大学生に関しては、ボランティア活動として参加してもらいたいので、ボランティアの申込用紙を提示し、希望者制で集まってもらいたいと考えています。

学生の間では、SNSを利用して情報の共有もしやすいと思います。大人の参加者に関しては、食に関する専門家や農家の方など、子どもに青森の魅力を伝えることのできるような方々の中でキャンプに興味のある方に参加してもらいたいと考えています。

また、公民館や図書館など、公共施設にポスターなどを掲示するというのも1つの案として考えています。

● しぶたに てつかず 渋谷 哲一 議員（県民主役の県政の会）

(渋谷議員)



今回のこの提案の中で非常に素晴らしいと思えたのは、SDGsの精神に基づいたプログラム、今後の国際社会の中で、青森県、人材育成、こういったものをどのようにしていくかというところは、世界全体の中での位置づけということを根底に置いてやっているということが、非常に素晴らしいなと思えました。

そこで、今回の取組、参加者にとって非常に有意義な体験になると思われませんが、効果を広めるためには、外部への発信も重要となると思います。取組内容を県全体へ発信するということが記載されておりましたが、具体的にどのような方法を考えているのかお伺いいたします。

(答弁)



「SNSを利用して広め、拡散していく」、「ポスターや新聞に掲載してもらおう」、「青森県内の学校全てにこの企画のことを紹介してもらおう」、「ウェブページを作る」といった4つの案を考えています。

ポスターや新聞に掲載するだけではなく、多くの若者が利用するSNSを利用して発信をしていくことで、より効率よく多くの目に留まるのではと考えました。

そして、そのSNSでは、食育キャンプで出た青森県の食に対する案や考えたレシピの紹介動画、参加した方々の感想などを載せるだけではなく、SNS上での意見交換や活動報告などを行い、継続性のあるものになったらと思います。



## 【質 疑（質問者：八戸聖ウルスラ学院高等学校、答弁者：県）】

（質問）



私たちが提案した食育の取組は、様々な世代、分野の方が関わるもので、子どもの育成や県民の健康意識向上などに大いに寄与するものと考えますが、県としては、この取組についてどのように考えるか教えてください。

また、青森県では、若者の県外流出が課題となっており、私たちの提案のように若者に青森県の魅力を伝えていくことが必要と思われませんが、県では、どのような取組を行っているのかを教えてください。

### ●農林水産部 食の安全・安心推進課

（食の安全・安心推進課長）



食育の推進は、様々な分野の人たちが連携・協力しながら、社会全体で取り組むべきものであり、県としても、八戸聖ウルスラ学院高等学校の皆さんの御提案は、子どもたちの食べ物を大切する心や感謝する心の育成、県民の健康意識の向上や健全な食生活の実現、本県の食文化の継承・発展等に大いに寄与するものと考えています。

県では、食育の取組を推進するため、青森県食育推進計画を定め、これに基づき将来を担う子どもたちを対象とした取組を実施しています。

具体的には、保育園児を対象に農業高校生が農作業や収穫物の加工、調理を教える「食農体験会」、小学生を対象にプロの料理人が学校に出向いて本格的な料理を教える「調理講座」、子どもから大人まで幅広い世代が集まって一緒に食事を作って食べたり、大人が子どもに勉強や遊びを教える「共食」の場づくりの支援などを行っています。

このほか、高校生を対象に、一人暮らしになっても健康的な食事を時短で簡単に作るコツを教える「自炊塾」や、県内の企業に栄養士を派遣し、働き盛り世代の社員に望ましい食生活を指導するセミナーなどを市町村や関係機関、団体等と連携して実施しています。

県としては、今後も、県民が本県の食の豊かさを楽しみながら、健康かつ長生きで活動的に暮らせる青森県を目指し、皆さんと一緒に食育の推進に取り組んでいきたいと考えておりますので、御協力をお願いいたします。

### ●企画政策部 企画調整課

（企画調整課長）



青森県の人口は、進学や就職のタイミングに当たる18歳、20歳、22歳で多くの若者が県外に流出する状況が続いています。

このため、県では、高校生や大学生などの若者の県内定着に向けた意識の醸成を図るため、青森の「しごと」と「暮らし」の魅力や、変わってきた青森の良さを伝える取組を進めているところです。

高校生の皆さんに対しては、通学、通勤時間の短さや子育てのしやす

さといった、本県の暮らしやすさなどを伝える冊子を作成し、毎年、県内の高校2年生全員に配布するとともに、私共、県の職員が高校に出向きPR活動を行っています。

また、大学生に対しては、県内で働く社会人との交流を通して、青森で暮らすことの良さ、働くことの良さに気づいてもらうためのワークショップを開催しています。

県では、これからも引き続き、若者の県内定着と還流の実現に向けて、本県の魅力や、確実に良い方向に変わってきている今の青森の姿を、より丁寧に分かりやすく、高校生や大学生などの若者に伝えて参ります。